

みつくら

令和 5年 1月15日 第378号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

天候がますますの皆既月食と惑星食

11月8日、皆既月食と惑星食(天王星食)が同時に起こる442年振りの天体ショーが大瀬川でも見られた。18時09分に始まった月食は、19時59分に最大となり、赤銅色の満月の輝きが神秘的であった。半分くらい欠けた頃から生憎にも雲が出たが、最大の皆既食時には丁度雲も無くなって観測にはまたとない機会となった。

前回日本で皆既月食と惑星食が同時に見られたのは、442年前、織田信長が活躍した頃の安土桃山時代(天正8年6月15日)との事。次回の皆既月食と惑星食(土星食)が同時に見られるのは、322年後の西暦2344年という。

くずまる大学が陸前高田で研修

12月1日号にも写真などで掲載したが、もう少し詳しく紹介したい。くずまる大学(菅原富男自治会長)の移動研修は、11月18日に20名が参加して行われた。場所は陸前高田市に2年前にオープンした農業テーマパーク「ワタミオーガニックランド」であった。この農業テーマパークは、居酒屋「和民」でお馴染みの渡邊美樹氏が、震災半年後に陸前高田市復興プロジェクトを立ち上げたのを縁に、この地に興したものだ。事業は始めたばかりだが、今後20年をかけて進めていくという。目を惹いたのは、畑の畝なりに設置した太陽光パネルを雨よけに、葡萄を栽培していて、ゆくゆくは欧米に太刀打ちできる独自のワイン造りを目指しているという。研修の場での昼食は「和民」のお弁当で、6次産業の1次から6次までを味わい、有意義な研修であった。

運動公園の落葉を除去

11月19日に大瀬川運動公園の落葉掃除を41人が参加して行った。今回の担当は8区の方々で、運動場の中は熊手などで比較的集め易かったが、植栽や草地の方は少々手間がかかり、集めた落葉は軽トラックで3台分にもなった。運動公園の銀杏は老木のためか、ギンナンも小さく、踏んでも「ぺちゃっ」と潰れるものが多かった。

マジックショーで「ふれあいサロン」

8区のボランティアグループ「あじさいの会」(板垣福子会長)主催のふれあいサロンは、11月22日に34名が参加して大瀬川振興センターで行われた。毎週火曜日定例の「元気でまっせ体操」の後に、二本木光史さん(ふれあい出前講座講師)によるマジックショーで楽しいひと時を過ごした。二本木さんは、お札の大きさに切った白紙5枚に魔法の薬をかけると、瞬時に千円札が5枚になるなど、12種類の手品を披露した。このマジックショーを見ながら、かつて板垣好一さんが老人クラブで披露した手品を思い出した。

7区と8区の農家組合女性部でしめ飾り作り

第7区農家組合女性部(畠山美代子部長)と第8区農家組合女性部(板垣江利子部長)で、それぞれ「洋風しめ飾り作り」を行った。講師は昨年に引き続きいづれも吉田昌子さん(花巻市小瀬川)にお願いした。7区では11月27日に7区自治公民館で14名が参加して開かれた。コロナ禍で7区でも久しぶりの集会とあって、会話を弾ませながらしめ飾り作りを楽しんだ。8区では12月3日に大瀬川振興センターで、募集人数調整のために二人の男性も加わり、20名が参加した。見本の中からデザインを思い思い選んでから、材料の稲穂や松ぼっくり、松の葉などの組み合わせに真剣に取り組んでいた。

この正月、参加者宅玄関には手作りのしめ飾りが飾られたことだろう。

山祇神社と天満宮で元旦祭

大瀬川の代表的な神社である山祇神社と天満宮では、正月行事を恙無く(つつがなく)終えた。まず、年越祭は両神社とも12月12日に、正月に向けての煤払いなどの正月準備は天満宮が12月29日、山祇神社は12月31日にそれぞれ総代や役員達が行った。平成の中頃までは、大晦日には山祇神社に役員が夜通し詰めて、元朝参りの方々に対応していたのが思いだされる。元旦祭は天満宮は早朝の午前5時から、山祇神社は午前6時から行われ、新年の安寧を祈願した。

県内神社の「どんと祭」は、通常1月15日に行われるが、山祇神社では祈年祭に合わせて2月11日の予定。

たんぼぼの会で収穫感謝祭

たんぼぼの会(熊谷幸子会長)では11月16日に収穫感謝祭を行った。当日は、9区自治公民館に15名が参加して平年作であった収穫に皆で労をねぎらったもの。内容は、最初に菅原千恵子さんが大型紙芝居を披露した後に懇談に移った。コロナ禍のために、9区でも集会が少ない折でもあり、久しぶりの会話に花が咲いたという。例年ならば、手作りの昼食で会話を楽しんでいたが、「事情が事情なのでお寿司のお持ち帰りでした」と菅原和子さん。7区のくずまるの花も、8区のあじさいの会でも元気体操の後のひと時を、会話で楽しんでいるが、コロナ禍のために集いが出来ない現状を憂いている。

黒森神社の年越祭に神楽を奉納

黒森神社の年越祭は12月17日、別当である六盃家で役員が中心となって行われた。この年越祭には、例年通り神楽を奉納し、今年の豊穰と安寧に感謝を捧げたもの。

黒森神社の氏子は、昭和30年には炭焼きなど67戸(区長記録)であったが、平成29年の例大祭の参列者から考えると、来賓を除いて30数戸と思われる。

第一老人クラブが社会奉仕

大瀬川第一老人クラブ(熊谷善志会長)では、11月19日に9区2班と3班の会員20名が参加して恒例の奉仕活動を行った。内容は、天満宮の外回りの清掃で、多くの杉の葉などを掃除し、境内が綺麗になった。これに先だって9区1班の会員6名も9月に黒森神社の境内を掃除している。

大瀬川の他の老人クラブでも毎年社会奉仕活動を実施していて、大瀬川高齢者クラブでは9月に山祇神社の草刈りと草取り、大瀬川中央長寿会でも9月に大瀬川運動公園の植栽の剪定を行っている。

歴史クラブが大瀬川館からの眺望講座

大瀬川歴史クラブ主管の「大瀬川館からの眺望講座」は11月30日に43名が参加して現地で開催され、講師の菊池邦雄さん(市文化財審議会委員)から大瀬川館についていろいろ教えて頂いた。今回の講座を設けたきっかけは、大瀬川館の北東部一帯の立木を100年ぶりに伐採したので、この機会に館山から眺望するために開いたもの。そこに立つと、遠くまで眺望が効き、紫波方面への備えとして、館の立地条件としては、なるほど条件が一致した。菊池講師からは、大瀬川館に関することや、「稗貫氏と居城」、館の北側を通っている「安倍道」、黒森神社鳥居付近にある「接待供養塔」なども案内された。接待供養塔については、歴史クラブの案内が間違っ、別の石碑を見てもらったが、後日菊池講師と再び探すと、鳥居近くにあった別の石碑が正解であった。その石碑には「接待供養塔 寛政12年(1800)6月23日、喜之助、茂助など3名の施主名が刻まれている、石碑の地上部分の高さは63cm、巾30cm、奥行き23センチであった。昭和58年11月号の広報いしどりやの記事には、司東真雄県文化財審議会委員の話として「接待供養塔は県内にはこれ(大瀬川の)を含めて2ヶ所(陸前高田市米崎)しかなく珍しい石碑」と掲載されている。当初予想の倍以上の参加者の協力で、有意義な勉強会となった。

訂正

○12月15日号の保育園児から展示して頂いた図画の熊谷優利さんは熊谷結衣(木ノ宮家)さんの誤りでした。

○また、同じ12月15日号の干支作りで紹介した菅原美佐子さんは菅原みさ子さんの誤りでした。訂正させていただきます。